

酒井邦嘉教授講演会 「読書は脳を創る」

言語能力を鍛えるには

「聞く・読む」「話す・書く」

ことが重要

聞主催で開催



講師の酒井邦嘉教授

鍛えるに  
緒なのです。

質疑応答では、視力低下により本の文字を  
読むことが困難で、朗

読本を聞いている方か  
らの質問に、「脳科学

的には視覚、手話、音

声どれで入っても最終  
的にたどり着く所は全

く同じ場所です」と酒  
井教授が答え、他に子

どもに対する読み聞か  
せの重要性など、活発

で有意義なコミュニケ  
ーションの場ともなり

ました。

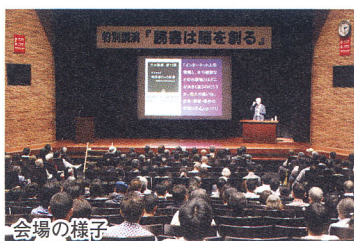
会場入り口では、多

治見市図書館が出張図  
書館「お図屈便」で約

200冊の本を並べ、  
講演会の関連本など、

参加者に好評でした。

文・安達 撮影・森井



会場の様子

6月22日にパローエ  
化ホール(十九田町)で、  
言語脳科学を専門とす  
る東京大学大学院の酒  
井邦嘉教授による「読  
書は脳を創る」をテー  
マに講演会が、中日新

聞主催で開催  
され、約300人の聴衆  
が集まりました。講演内  
容を紹介します。

◇読書は多読より能動的  
な再読が重要で、紙の本  
や新聞、雑誌を読むこと  
は、電子書籍とは違い製

本されているカバーや装  
丁などページの手がかり  
が豊富で繰り返し読むに  
は最適、一覧性にも優れ  
ています。ネットで検索

しなくても、脳はキーワ  
ードを探し出すことがで  
きます。考える前に検索

する習慣は、想像力を奪  
ってしまいます。言語能力を

し、「話す・書く」とい  
う創造力をできるだけ多く  
出力することが重要です。

◇生成AIという言葉は  
「合成AI」というべき  
で、対話型ではなく、「対

話風」なだけで、子ども  
たちがAIに褒められて  
自己肯定  
感を増幅  
してしま

う危険性  
をはらん  
でいます。  
つまり、  
オウムと

AIは一



出張図書館「お図屈便」